

【米田名誉主宰の俳句】

桜餅

米田規子

干して畳んで晩春のふくらんで
春菊やこの淋しさは何処から
詩を離れひと日降りつぐ花の雨
桜餅いくつになっても華やいで
散るさくらピアノの音色艶めいて
姉の背を越す勢いの春祭
筍の土の湿りごと抱き帰る
鬱々と目覚めいっせいに木の芽風
夏はじめ筋肉足りない左腕
ゴールデンウィーク定位置に塩・さとう